

(社) 日本原子力学会 標準委員会  
第 42 回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録

1. 日時 2010 年 3 月 3 日 (水) 13:30~18:00
  
2. 場所 (独) 原子力安全基盤機構 別館 11A, 11B 議室
  
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)  
(出席委員) 駒田 (副部会長), 加藤 (幹事), 阿部, 櫻井, 井口, 猪俣, 金木, 川上, 坂下, 白井, 木村, 深澤, 中津, 天野 (14 名)  
(途中出席) 近藤 (14:40~出席), 田中 (部会長) (16:30~17:15 出席) (2 名)  
(代理出席委員)  
渡辺 (有富代理), 福岡 (仲神代理), 山田 (浦上代理), 山本 (新堀代理), 武部 (高橋代理), 丸岡 (加藤代理) (6 名)  
(欠席委員) 内山, 大久保, 小佐古, 中島, 森山 (5 名)  
(常時参加者) (0 名)  
(欠席常時参加者) 菊池, 宮川 (2 名)  
(説明者) 片寄 (LLW 廃棄体等製作・管理分科会幹事, LLW 放射能評価分科会幹事)  
吉原 (LLW 埋設後管理分科会幹事, LLW 埋設施設検査方法分科会幹事)  
(傍聴者) 柏木, 中瀬, 御子柴, 高橋, 安田 (5 名)  
(事務局) 谷井
  
4. 配付資料  
FTC42-1 第 41 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)  
FTC42-2-1 人事について (専門部会)  
FTC42-2-2 人事について (分科会)  
FTC42-3 公衆審査「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準: 200〇」(改定案) 結果  
FTC42-4-1 「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)」  
標準委員会本報告審議結果について  
FTC42-4-2 標準委員会書面投票コメント対応について  
「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)」  
FTC42-4-3 「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)」の主な改定箇所について  
FTC42-4-4 「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)」修正版  
FTC42-5-1 標準委員会書面投票コメント対応について

- 「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法(案)」
- FTC42-5-2 「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法(案)」  
書面投票コメント対応修正箇所表示抜粋版
- FTC42-5-3 「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法(案)」  
完本版
- FTC42-6-1 原子燃料サイクル専門部会書面投票コメント対応について  
「余裕深度処分施設の施設検査方法(案)」、「ピット処分施設の施設検査方法(案)」、「トレンチ処分施設の施設検査方法(案)」
- FTC42-6-2 余裕深度処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版
- FTC42-6-3 余裕深度処分施設の施設検査方法(案) 完本版
- FTC42-6-4 ピット処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版
- FTC42-6-5 ピット処分施設の施設検査方法(案) 完本版
- FTC42-6-6 トレンチ処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版
- FTC42-6-7 トレンチ処分施設の施設検査方法(案) 完本版
- FTC42-7-1 「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法(案)」中間  
報告審議結果
- FTC42-7-2 **【本報告】**「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法  
(案)」概要版
- FTC42-7-3 「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法(案)」OHP版
- FTC42-7-4 「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法(案)」
- FTC42-8 「L2 浅地中処分の安全評価手法の標準化」について
- FTC42-9 原子燃料サイクル専門部会における標準策定スケジュール案(至近3年)
- FTC42-10 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況
- FTC42-11 標準委員会の活動状況

#### 参考資料

- FTC42-参考1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC42-参考2 原子力学会 2010年春の年会「企画セッション提案書」(改訂)

#### 5. 議事内容

##### (1) 出席者の確認

開始時、27名の委員のうち、代理委員を含め20名の出席があり、成立に必要な委員数(18名)を満足している旨が事務局から報告された。

##### (2) 前回議事録の確認

前回議事録(FTC42-1)が修正の後、承認された。修正内容は以下のとおりである。

##### 3. 出席者中(代理出席委員)の記載中での下記修正

中居(金木代理)の削除

福岡(仲神代理)の追記

(3) 人事について（専門部会人事）

事務局から、FTC42-2-1 に沿って、井口 哲夫氏（名古屋大学）の3月3日付け、駒田 広也氏（(財)電力中央研究所）の3月末付けでの退任の報告がされた。

事務局から、FTC42-2-1 に沿って、有富 正憲氏（東京工業大学）及び川上 泰氏（(財)原力安全研究協会）の委員再任について報告があり、決議の結果、承認された。

(4) 人事について（分科会人事）

事務局から、FTC42-2-2 に沿って、LLW放射能評価分科会の中田 幹裕氏（三菱重工業(株)）の退任が報告され、その後任として、三宅 裕介氏（三菱重工業(株)）が新委員として選任された旨の説明があり、決議の結果、承認された。

(5) ”使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：(改訂案)”の公衆審査結果報告

事務局から、FTC42-3 に沿って、標準案”使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準(改訂案)”の公衆審査において、意見がなかったことが報告された。

(6) ”余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)“の標準委員会書面投票結果及びコメント対応について

LLW放射能評価分科会の片寄幹事から、標準案”余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)“が標準委員会書面投票において否決されたことが報告された。

続いて、FTC42-4-1～4 に沿って、標準委員会書面投票でのコメントに対する対応案について審議され、この対応案及び今回の質疑結果を反映した修正内容は編集上の修正であること並びにコメント対応案及び質疑の内容を反映した標準案を標準委員会へ報告することを決議された。

主な議論は以下のとおりである。

- ・資料 FTC42-4-2 コメント対応表のコメント No.20 では、図の番号の繰り上がりは説明しているが、同資料のコメント No.21 では表番号の繰り上がりが示されていないため、記載すること。
- ・資料 FTC42-4-2 のコメント No.28 に対応して、今回、追加した解説の文章中に、コメント No.49 で、他の用語に置き換えるようにと指摘された“担保”が使用されているため、“保証”などに置き換えた方がよい。
- ・書面投票で提出された“反対意見”，並びに“意見保留”に関しては、既に対応して解消されたと理解してよいか。

→メールにより修正案を提示して、了承したとの連絡をうけている。

(7) “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法(案)” の標準委員会書面投票結果及びコメント対応について

LLW埋設後管理分科会幹事の吉原幹事から、FTC42-5-1 に沿って、標準案“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法(案)” が標準委員会書面投票において否決されたことが報告された。

続いて、FTC42-5-1～3 に沿って、標準委員会書面投票でのコメントに対する対応案について審議され、この対応案及び今回の質疑結果を反映した修正内容は編集上の修正であること並びにコメント対応案及び質疑の内容を反映した標準案を標準委員会へ報告することを決議された。

主な議論は以下のとおりである。

- ・FTC42-5-1 のコメント対応表のコメント No. 10 に記載されている標準の修正案は、FTC42-5-2 に示されている修正案と異なる部分があるので、両者を一致させること。  
→ 拝承。FTC42-5-2 の標準修正案が正しいので、これに一致させます。
- ・コメント対応表のコメント No. 1 (反対投票付記) への対応案の解説 3.1 では、安全審査指針類の制定等に伴い標準を見直すことを断定するような論調になっているが、解説 4.1 の修正案と整合させて、見直しが必要な場合があるとした方がよいと思う。
- ・ここで提示されている修正案は、反対投票された標準委員の修正提案であり、すでにこの案で了承を得ているので、ここでまた再修正を行うなら、あらためて承認を得る必要がある。  
→ 拝承。早急に修正案を作成し、学会事務局経由で当該標準委員へ送付し、再度確認していただき、承認をしていただいた上で、標準委員会へ提示することと致します。
- ・上記の修正をする場合は、“本標準”と“この標準”の記載を一致させること。  
→ 拝承。“この標準”に統一します。
- ・コメント対応表のコメント No. 4 の対応案に記載されているウラン廃棄物を適用範囲から除外する理由は、“リサイクルウランの加工を考えるとウラン加工施設も対象とすべきではないか”という指摘への回答としては、適切ではないと思われる。
- ・ウラン廃棄物の処分に関する原子力安全委員会の方針では、“天然起源の核種を主たる組成とする廃棄物については、埋設計画が具体化する段階で検討する”として、現状では、ウラン廃棄物に対する安全規制の基本的な考え方などが定まっていないので、これを理由に除外するとしてはどうか。
- ・その意見に賛成する。今のご意見を出された分科会副主査と分科会幹事とで協議して対応表のNo4を修正し、標準委員会へ提示していただくこととする。(副部長)  
→ 拝承。
- ・コメント対応表のコメント No. 3 の修正案の“radioactivity concentration”は、現行の標準に合わせるならば、“activity concentration”ではないか。
- ・この件は、事務局で確認していただき、関係者へ連絡していただく。  
→ 拝承。(即日確認の結果、“activity concentration”に統一することとなった。)

(8) 余裕深度処分施設の施設検査方法(案)”, “ピット処分施設の施設検査方法(案)” 及び “トレンチ処分施設の施設検査方法(案)” 原子燃料サイクル専門部会書面投票結果及びコメント対応について

LLW埋設施設検査方法分科会の吉原幹事から、標準案“余裕深度処分施設の施設検査方法(案)”, “ピット処分施設の施設検査方法(案)” 及び “トレンチ処分施設の施設検査方法(案)” が本専門部会書面投票において可決されたことが報告された。

続いて、FTC42-6-1~7に沿って、標準委員会書面投票でのコメントに対する対応案について審議され、この対応案及び今回の質疑結果を反映した修正内容は編集上の修正であること並びにコメント対応案及び質疑の内容を反映した標準案を標準委員会へ報告することを決議された。

主な議論は、以下のとおりである。

- ・ピット処分施設検査方法のコメントNo.22 について、コメント対応の内容は理解するが、余裕深度では、判定基準まで踏み込んだ記載はしないことを強調する表現ではなく、ここは、ピット処分についてのコメントなので、ピット処分施設では、実績があるので、判定基準まで記載しているという前向きな表現にした方がよい。

→拝承。ご指摘の趣旨に沿って対応案を修正します。

- ・トレンチ処分施設検査方法のコメントNo.7について、ピット処分のまえがきの英文のことを記載しているが、実際にトレンチ処分の標準案に対してこのようなコメントがあったのか、単純な対応表作成時の誤記なのか確認のこと。誤記ならば削除のこと。

→拝承。対応表作成時の誤記と思われるので、コメントを再度確認の上、削除します。

(9) “「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法」(案)“(本報告)

LLW廃棄物等製作・管理分科会の片寄幹事から、FTC42-7-1~4に沿って、標準案“トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法(案)”について本報告が行われ、決議の結果、本専門部会書面投票に移行することが承認された。

- ・FTC42-7-3の9頁及び10頁における“最大放射能濃度”は、政令に示される第二種埋設事業ができる放射能濃度と事業許可申請書に記載されている最大放射能濃度の観点での誤解を受けやすいので、説明時に留意すること。

- ・金属コンテナ”を使用する場合は、“こん包”でなく、“収納”ではないか。

→トレンチ処分対象廃棄物は、“容器に封入すること”が求められておらず、ここでの金属コンテナは、容器として用いるわけではないことから、容器の要件は要求されないことを“こん包”で示している。

- ・この標準は、原子力発電所だけを対象としているが、他の標準では、他の原子力施設の廃棄物も対象としている。

→標準化の当初の計画に沿って、原子力発電所を対象としており、将来、同等の処理が、他の原子力施設に適用できることが認められた場合、取り込んでいきたいと考えている。

・“品質確認”を“検査”に変更するとの事であるが、この用語に関しては、他の標準などでの使用実績などはあるのか。

→複数の標準で、“検査”の用語が使用されていることを確認している。

(10) “L2 浅地中処分の安全評価手法”の標準化等のための分科会の設置について

LLW処分安全評価分科会(仮称)の山本委員候補から、FTC42-8に沿って、“L2 浅地中処分の安全評価手法”の標準化等のための分科会の設置について説明があり、審議の結果、既存の分科会である“浅地中処分安全評価分科会”と“余裕深度処分安全評価分科会”との機能を含め、「ピット処分の安全評価手法案」の標準化を目的したLLW処分安全評価分科会を新規に設置することを決議された。

(11) 平成22年度活動計画について(標準策定スケジュール)

事務局から、FTC42-9に沿って、平成22年度活動計画について報告され、審議の結果、標準委員会へこの活動計画を報告することが決議された。

ここで、5年毎の改定要否検討時期である“臨界安全管理の基本事項:2004”については他専門部会の検討結果を踏まえ、標準委員会へ報告することになった。

(12) 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

事務局から、FTC42-10に沿って、原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況が報告された。

(13) 標準委員会の活動状況について

事務局から、FTC38-11に沿って、標準委員会の活動状況が報告された。

## 6. 今後の予定

次回は追って連絡する事が決まった。

以 上